

## グラフィア

## 神経 Behçet 病

( Brain CT &amp; MRI findings of neuroBehçet disease )

<sup>1</sup>山室 学 <sup>1</sup>北村 伸 <sup>1</sup>宗像 一雄 <sup>2</sup>片山 泰朗  
<sup>1</sup>第二病院内科 <sup>2</sup>内科学第2教室

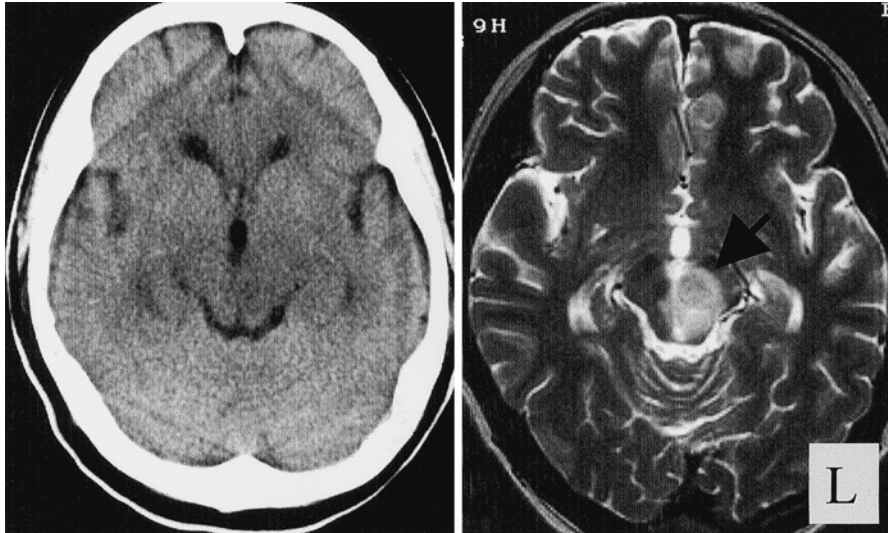


図1A

図1B

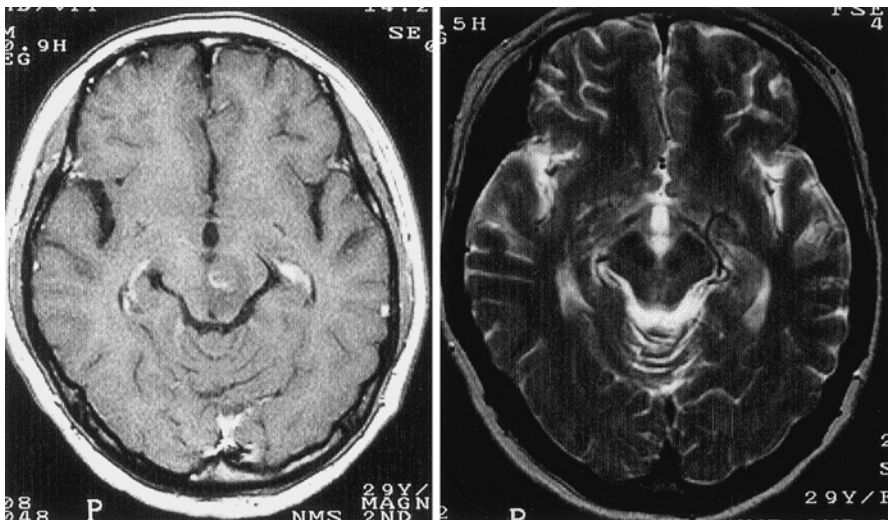


図1C

図1D

図1 急性期神経 Behçet 病 ( 図1A . CT 像 , 図1B . MRI T<sub>2</sub> 強調像 , 図1C . Gd エンハンス , 図1D . ステロイド療法 60 日後 )

Behçet 病 ( BD ) のうち中枢神経病変を合併するのは約 10 ~ 30% で , 病変部位は脳幹 , 間脳 , 基底核に多く , これに大脳白質が次ぐ . 病変の検出には CT より MRI T<sub>2</sub> 強調像が有用で , 高信号領域として描出される ( 図1AB ) . これらの病変は血管炎に基づくもので , 血管脳関門が破綻すればガドリニウム ( Gd ) でエンハンスされる ( 図1C ) . 神経 BD にはステロイド療法が著効する ( 図1D ) .

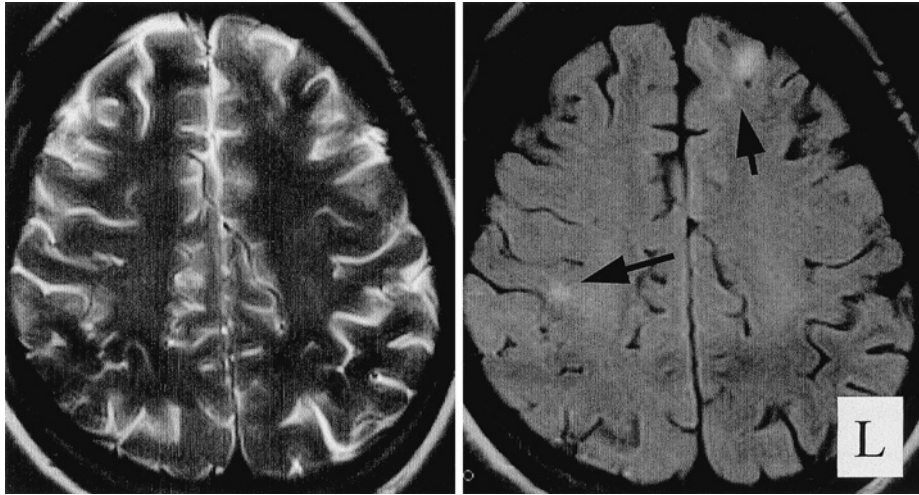


図 2 A

図 2 B



図 3

**図 2** 神経 Behçet 病の大脳皮質病変 ( 図 2 A . T<sub>2</sub> 強調像 図 2 B . FLAIR 像 )

従来, 大脳皮質の病変は稀であるとされていたが, 我々は最近, 髄液の高信号を消去させた撮像法である FLAIR 像で大脳皮質に病変を検出した症例を経験している .

**図 3** 発症後 7 年の進行性神経 Behçet 病の MRI ( 矢状断 T<sub>1</sub> 強調像 )

神経 BD のうち約 30% にゆっくり進行する精神症状, 痴呆がみられ, 進行性神経 BD とよばれる . 脳幹の萎縮が著明である .

**文 献**

Tali ET, Atilla S, Keskin T, Simonson T : MRI in neuro-Behçet's disease. Neuroradiology 1997 ; 39 : 2 6.